

をしよ」といふ語が出てゐる。これは事實で、研究所の満場一致でこのシンポジウムとなった。久しぶりにおもしろい話がかがえるだらう」と朝永さんをひきたてて、

あつはひのうゝに花が主で、人をな

米学者 国際会議で注目の発表

上のか子ー 研教進と子他X 差

c073-001-034

をのべた。

同博士の発表は議論を降び、
四十分間になり、ヤン博士、
J・ボーム博士（イギリス）

学共

・ロゼンフェルト博士(デンマ
ーク)ら十二人がつぎつぎ意見を
のべた。ことにヤン博士は、湯川
説に疑問を提出したが、湯川博士
は「またこの考え方は完全なもの
ではないが、最終的に素粒子を統
一的に説明する方向と考えている
人々には重要なことだ」と答へた。

This image shows a blank, aged, light brown page, likely an endpaper or flyleaf of a book. The paper has a textured, slightly mottled appearance with some creases and discoloration, characteristic of old paper. There is no text or other markings on the page.

「創造性」めぐり分析

者たちが「創傷性」という一つのテーマをめぐる、さまざまな角度から組織的な分析を試みてゐるのは興味深い。

澤川氏は「天才論」の中で「十九世紀から二十世紀のはじめにわたって多くの天才たちが創造した近代物理学の輝いた増産を食いつくすような仕事が多くなった。その現実的な血肉を失った、骨皮だけの」がそのまま独創的な新しい理論。

ゆる面と深刻ともいえる混沌状が現れきつゝある。

このよすな問題に対処するたにも既成の専門概念や思考慣習らぬけ出した柔軟な発想を模する研究体制の必要が痛感される意味でも「オリジナルは構以外は発表しない」ことを原則するこの研究会のこれからが望まれる。

この論文集の中で紹介されている湯川氏の「天才論」國原氏の「天才と凡才」岡本氏の「創造的人間形成のための歴史的社会的条件」市川氏の「創造のテクノロジ」など、専門分野を異にする著

の「なることはない」と、抽
化、一般化された学問の老花現
を指摘している。学問の世界だ
でなく、われわれの周辺には太
ムードとやらはらに政治、経済
産業、交通、教育、道徳と、あ

This image shows a blank, aged, light brown page, likely an endpaper or flyleaf of a book. The paper has a textured, slightly mottled appearance with some creases and discoloration. A small, dark, rectangular object is visible near the top center.

最終的に素粒子を統
る方向と考えてい
もつてのべた。

十八日は引き続き時
論と量子論の部門で
予定されている。

エルト博士（デンマ
人がつぎつぎ意見を
にヤン博士は、湯川
出したが、湯川博士
考え方は完全なもの